

令和 3 年 5 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02367

研究課題名（和文）岩国市に伝存する和漢古典籍の総合的調査研究 分類総合目録の作成に向けて

研究課題名（英文）A Study on the Japanese and Chinese Classical Literal Materials in Iwakuni: In an attempt to make a comprehensive classification catalogue

研究代表者

妹尾 好信（Senoo, Yoshinobu）

広島大学・人間社会科学研究科（文）・教授

研究者番号：10171357

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：吉川氏の城下町である山口県岩国市には膨大な量の古典籍が伝存しているが、それらはいくつもの施設に分かれて所蔵されているため全体像がつかみにくく、研究者や一般市民の利用に十分供しきれていないと見られる現状にあった。そこで本研究では、吉川史料館、岩国徴古館、岩国学校教育資料館、岩国市中央図書館の4施設に所蔵されている和漢古典籍を悉皆調査し、詳しい書誌情報を公開するとともに、古典籍の分類法に基づく総合的な古典籍目録を作成するためのデータ収集を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古典籍資料はただ保存して後世に伝えるだけではなく、研究資料としてそれらを必要とする人々の目に触れ、手に取って読むことができなければ存在価値がない。そのためにはどこにどのような古典籍が所蔵されているのか、詳しい情報が公開される必要がある。岩国市に伝存する古典籍については、冊子体の目録や収蔵資料検索システムで所蔵情報が公開されているが、掲載されている書誌情報は簡略なものであった。本研究によって、詳しい目録の作成ならびに検索システム上の書誌情報の更新を行い、飛躍的に充実させることができた。また、悉皆調査により伝存する古典籍の全貌が把握できたので、総合的な分類目録作成のためのデータがほぼ整った。

研究成果の概要（英文）：A large number of the Japanese and Chinese classical literal materials have been handed down in Iwakuni, the Kikkawa family's castle town, in Yamaguchi prefecture. It is difficult, however, to get the general picture (of the collection) as they are owned separately by several facilities, with the materials unavailable to researchers and the ordinary citizens.

In this research, I investigated thoroughly the Japanese and Chinese classical literal materials owned by the four facilities: Kikkawa Historical Museum, Iwakuni Chokokan Museum, Iwakuni Educational Museum of Archive Collection, and Iwakuni Central Library. I observed them carefully and made a detailed bibliography to be shown. Furthermore, I collected data to make a comprehensive classification catalogue based on the classification of the classical literal materials.

研究分野：日本文学

キーワード：岩国市の古典籍 吉川史料館蔵書 岩国徴古館資料 吉川家寄贈図書類 岩国学校教育資料館蔵書 岩国市中央図書館和装図書

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

山口県岩国市は吉川氏 6 万石の城下町として発展し、独自の文化を育んできた。そして、武器・調度・工芸品をはじめ、古文書・書画・典籍など、多数の文物が今日に残されている。

吉川家伝来の文物のうち特に重要なものは、吉川家当主が代表をつとめる財団法人吉川報効会が運営する吉川史料館が所蔵し、定期的に展示・公開されており、山口県教育委員会による詳しい調査が行われて、広く世に知られている。

また、吉川家伝来の図書類については、特に貴重なものを除く大部分が岩国市に寄贈され、岩国徴古館の所蔵となっていて、その内容は、同館が平成 4 年に刊行した『吉川家寄贈図書類目録』によって知ることができる。また、岩国徴古館にはそれとは別に独自に収集した資料も多く所蔵されており、それらは平成 8 年に同館が刊行した『岩国徴古館資料目録』に掲載されている。

また、岩国市中央図書館には、藩校養老館、明治初年の岩国藩学校から錦見小学校・岩国小学校の蔵書や、明治末年開設の岩国図書館の蔵書を受け継ぐとともに、明治期から昭和戦前・戦中に近在の旧家や名家から寄贈された和装図書が多数保管されている。

さらに、旧岩国小学校の校舎を利用して昭和 44 年に開設された岩国学校教育資料館にも、江戸末期から明治中期にかけて、藩校や寺子屋、近代初期の学校で教科書として使用された和装図書類がまとめて所蔵・展示されている。

このように岩国市には、膨大な数の古典籍が伝存しているのであるが、いくつもの施設に分かれて所蔵されているため、なかなかその全貌をつかみにくいのが難点であった。また、吉川史料館所蔵の文化財以外には古典籍の詳しい書誌情報が知られず、岩国市中央図書館の和装図書と岩国学校教育資料館の蔵書については簡略な目録さえ刊行されていない状況にあった。

そこで、平成 23 年度から 26 年度にかけて、科学研究費基盤研究(C) (一般)「岩国市に伝存する吉川家由来書を中心とした古典籍についての調査研究」により、岩国市各施設が所蔵する古典籍の悉皆調査を始めた。4 年間で、岩国市中央図書館所蔵の和装図書約 1600 点の調査を完了し、詳しい書誌情報を載せた「岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿」を作成した。また、岩国徴古館が所蔵する吉川家寄贈図書類約 2900 点についても調査を進め、研究期間内にほぼ半数にあたる国書約 1400 点の調査を終えた。調査済みの書目については、同館ウェブサイト上の「収蔵資料検索システム」内のデータを更新する形で詳しい書誌情報を公開したので、すでに一般の利用に供することができている。

2. 研究の目的

本研究は、先の科学研究費補助金による研究を発展的に継承して、岩国市に伝存するほぼすべての古典籍を調査して詳しい書誌データを収集し、最終的には古典籍の分類方法に基づいた分類総合目録の作成をめざそうとするものである。各施設に分散する古典籍資料を総合的に俯瞰することのできる目録が完成すれば、岩国市に伝存する古典籍の全貌が明らかになり、国文学をはじめ、歴史学、文化財学、美術史、教育史、文化史などの研究者や、郷土史や地域文化に関心を持つ一般の人々にも裨益する研究資料を提供することができる。また、岩国のみならず、広く山陽地方、瀬戸内海沿岸域、中国・四国地方における文化史や文化交流史の研究のための基礎資料となることが期待される。

3. 研究の方法

次のような方法と手順で、各施設における所蔵資料の調査・研究を行った。

(1) 吉川史料館

吉川史料館の叢書については、すでに山口県教育委員会によって詳しい調査・研究が行われており、その成果は山口県歴史資料調査報告書第三集『吉川家歴史資料目録』（昭和 59 年）として公刊されている。本研究では、改めて調査・研究を行う必要はないと判断し、同館の学芸員と数回の面談を行い、所蔵資料に出入りがないことと厳密な管理が行われていることを確認した。

(2) 岩国徴古館

岩国徴古館所蔵の古典籍資料には、吉川家から寄贈された図書資料からなる「吉川家寄贈図書類」と、同館が独自に受贈・購入して収集した資料である「岩国徴古館資料」の二つの資料群がある。同館から刊行されている二つの冊子体目録、『吉川家寄贈図書類目録』と『岩国徴古館資料目録』を基礎台帳として、同館により提供されたエクセルデータに情報を上書きする形で調査を進めた。

『吉川家寄贈図書類目録』では、全体が 19 類に分けられ、第一類から第四類までが主として漢籍、第五類から第十九類までが国書という配列になっている。先の科学研究費補助金による研究で国書部分の調査は済んでいたため、今回の研究では漢籍部分の調査が主であった。調査により、漢籍に分類されている資料の中にも相当数の国書が混在していることが判明した、これらの資料の分類を再検討することも調査の重要な課題となったが、この部分の調査は平成 28 年度に

完了した。

ところで、その時点で、同館学芸員から、各資料の画像を撮影して「収蔵資料検索システム」に掲載できないかという要望が出され、協議した結果、国書部分も含めて、すべての資料の画像を撮影することとした。画像は資料1点につき1枚とするが、単純に表紙を撮影するのではなく、利用者に益するよう、基本的に書誌的情報の多い見返し題や巻首部分を撮影することにした。ただし、先に「岩国徴古館資料」の書誌調査と画像撮影を行い、その終了後に改めて「吉川家寄贈図書類」の画像撮影を行うことにした。

平成29年度に「岩国徴古館資料」のうち「典籍類 a 漢書」の書誌調査と撮影を行った。冊子目録では約350点であるが、実際には約400点の書目が存在した。また、漢籍ばかりではなく、さまざまなジャンルの書物が含まれているので、分類項目の確定にも意を払った。

平成30年度と令和元年度の前半を使って、「典籍類 b 和書」の書誌調査と撮影を行った。冊子目録では349点であるが、実際には647点の書目が存在した。当初見込みの倍近い点数があったので、1年間で調査を終了することはできなかった。

令和元年度の後半から翌2年度の前半にかけて、「吉川家寄贈資料」の撮影と、展示中などの理由で調査できていなかった書目の書誌調査を行った。4月から6月中旬まで、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため岩国徴古館が休館となって調査・撮影ができず、研究が停滞したが、6月下旬には再開できたので、大きな遅れにはならなかった。令和2年秋には、岩国徴古館が所蔵する古典籍のすべての書誌調査と画像撮影を完了した。

(3) 岩国市中央図書館

岩国市中央図書館所蔵の和装図書については、先の科学研究費補助金研究において調査を終えていたので、本研究の期間内には、「目録稿」の継続刊行と、書名索引の作成・刊行を行った。「目録稿」の原稿作成に際しては、データの確認のため、年に1~2回は同図書館を訪れた。

(4) 岩国学校教育資料館

岩国学校教育資料館の調査は平成28年度から始め、岩国徴古館の調査と並行して行った。基本的に岩国徴古館の方を優先し、徴古館に展示替えや休館等で調査に支障が生じた時にのみ行ったので、4年目の令和元年度まではあまり調査が進まなかったが、令和2年度になって徴古館の調査が終わると、集中して学校教育資料館の調査を行った。

調査は、1階「教科書展示室」の展示ケース内にある資料から配置順に行った。岩国市教育委員会より所蔵資料の一覧をエクセルデータで提供を受けたので、それにデータを書き込む方法で行った。資料館スタッフが作成した配架順目録も提供されたので参考になったが、エクセルデータ(資料番号順)と配架順は大きく異なるので、資料の同定に手間取り、資料番号順に出納してもらえる徴古館の調査のように能率的ではなかった。また、展示ケースに収納されている資料以外にも2階の収蔵庫に衣装箱10個分の資料があることが判明、その大部分が調査対象となる和古書であったので、大急ぎで調査することになった。なんとか年内に「教科書」類の調査を終え、年度末の刊行に向けて分類目録の作成に着手することができた。

ところが、研究期間が終了する間際の令和3年2月になって、調査した「教科書」類の他に、別棟の収蔵庫に置かれている「文書」類の中にも約300点の古典籍資料があることがわかった。「文書」類は古文書史料であって調査対象外だと思っていたため困惑したが、思いもかけず多数の古典籍が見つかったことは喜ばしいことなので、それらは今回の科学研究費の研究期間終了後に追加して調査することとした。

幸いにも、令和3年度より、岩国市に伝存する和漢古典籍の分類総合目録作成のための新たな科学研究費補助金研究が採択されたので、それを利用して継続的に調査を行うことができるようになった。

4. 研究成果

5年間の研究期間を終えて、当初最終的な目標とした分類総合目録の作成とその完成にまで至らなかったことは残念であるが、目録作成のための材料となる詳しい書誌データの収集をほぼ完了することができたことは大きな成果である。

書誌データはただ収集するだけでなく、まとまりごとに逐次公開して一般の利用に供することにつとめてきた。各館所蔵の資料について、研究期間内に次のようにデータの公開を行った。

(1) 岩国徴古館

資料の点数で最も多い岩国徴古館が所蔵する古典籍については、同館の「収蔵資料検索システム」のデータ更新という形で調査の結果を公開した。

従来、「収蔵資料検索システム」上の書誌情報は冊子版目録に載せられているのと同じ簡略なものであった。たとえば、「吉川家寄贈図書類」における「第八類 地誌・地図・名勝図・絵類」の中の通番号1409、番号109の『芸州 巖島図会』の場合、

書名 芸州 巖島図会
著作者名 岡田清
員数 10冊
刊行年 天保13年

備考 木版刊本。2部宝物図会5冊含
とあった従来の情報が、今回の調査を反映して、

書名 芸州 巖島図会

員数 10冊

作成年(和暦) 天保13年發兌

作成年(西暦) 1842

形態 冊子・刊本・袋綴

材質 楮紙

内容 地誌。

作者名 岡田清編述、山野峻峯齋画

資料解説 10巻10冊(巻之一～五、宝物之部巻之六～十)。天保6年(1835年)慎思齋主人(久我通明)序。天保7年(1836年)田中芳樹序。天保8年(1837年)岡田清自序。年時不記頼裏序(巻之六)。天保12年吉村廣胖跋(巻之十)。刊記に「巖島神庫蔵版」とあり。同一資料1部あり。

というように大幅に増補され、画像(本資料の場合は、第1冊と第6冊の表紙)も掲載された。画像は単純に表紙を載せるのではなく、主として書誌情報を多く記す見返し題や巻首部分を選んでいる。編著者名のみならず、画工や序跋者名も掲載して、資料の製作に関わった人物の人名検索に便ならしめた。岩国徴古館所蔵資料は、国文学・国史学をはじめさまざまな分野の研究者にとって重要なものを含んでいる。今回の調査により利用度が格段に高まることが期待される。

(2) 岩国市中央図書館

岩国市中央図書館所蔵の和装図書については、先の科学研究費補助金研究において全点の閲覧調査を行い、詳しい書誌データを収集した。今回の研究期間においては、すでに刊行を始めていた「目録稿」を継続刊行するとともに、完成後さらに書名索引も刊行した。平成28年度以降の「目録稿」刊行実績は次の通り。

平成28年度 「岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿—文学の部(後半)、補遺—」

『内海文化研究紀要』第45号 平成29年3月 1～22頁

平成30年度 「岩国市中央図書館所蔵和装図書目録原稿—書名索引—」

『内海文化研究紀要』第47号 平成31年3月 1～27頁

「目録稿」は、便宜上、同図書館が付した各図書のNDC番号(Nippon Decimal Classification)に従って分類・配列したものであるため、必ずしも古典籍の分類として厳密ではない。しかしながら、これまで目録が公開されていなかった和装図書群の全貌が詳しい書誌データとともに通覧できるようになったことは非常に意義深いことと自負している。また、書名索引の作成により、1672点に及ぶ岩国市中央図書館所蔵の和装図書群の書目を一覧でき、書名の検索も容易になった。また、図書番号を併記したので、書名索引のみによって当該図書の出納が可能である。

(3) 岩国市立岩国学校教育資料館

岩国市立岩国学校教育資料館が「教科書」資料として分類している収蔵資料を調査し、古典籍の分類法に基づいた分類目録を作成・公刊した。刊行形態は次の通り。

「岩国市立岩国学校教育資料館所蔵和古書分類目録—「教科書」資料の部—」

『内海文化研究紀要』第49号 令和3年3月 1～40頁

これによって、同館1階の「教科書展示室」に展示されている寺子屋教本や明治前期の古教科書類をはじめとして、2階収蔵庫内に保管される同様の和古書類も含めて412点について詳しい書誌情報とともに書目を公開することができた。国文学や歴史学の研究者はもとより、教育史の専門家にとっても有益な目録になったと確信する。掲載誌の紙数制限の関係で学校教科書については明治19年の教科書検定制度発足以前のものに限定したが、調査は和綴りの装丁による明治30年頃の教科書まで行った。分類総合目録作成の際には、すべての和綴り教科書も対象として掲載したい。

なお、「教科書」資料の部に限定したのは、同館が「教科書」資料として保管している資料群の他に、「文書」資料として保管する資料の中にも多数の古典籍が含まれていることが研究期間の終了間際になって判明したことによる。さらに、「郷土資料」に分類されている資料群の中にも若干数の和本が存在することもわかったため、今後調査を継続して両資料群の中の和古書目録を別に作成し、令和3年度末には刊行したいと思っている。

この他、岩国徴古館所蔵の巖島に関する図書や絵図等の資料について解題を作成して公刊し、その中でも特に貴重な資料である『巖島大明神御縁記』と『敬白 巖島大明神御縁記』の両書については、全文の翻刻とやや詳しい解題を執筆して刊行した。

以上が今回の科学研究費補助金の研究期間における成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 49
2. 論文標題 岩国市立岩国学校教育資料館所蔵和古書分類目録 「教科書」資料の部	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内海文化研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 16
2. 論文標題 岩国徴古館蔵『敬白 厳島大明神御縁記』 翻刻と解題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 厳島研究	6. 最初と最後の頁 20-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 第47号
2. 論文標題 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿 書名索引	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内海文化研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 第15号
2. 論文標題 岩国徴古館蔵『厳島大明神御縁記』 翻刻と解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 厳島研究	6. 最初と最後の頁 19-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 14
2. 論文標題 岩国徴古館所蔵 巖島関係図書・絵図等 解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 巖島研究	6. 最初と最後の頁 20-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾好信	4. 巻 45
2. 論文標題 岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿(6) 文学の部(後半)、補遺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 内海文化研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究の成果に関連して、2021年3月21日に、岩国徴古館が主催する第637回郷土史研究会(於 サンライフ岩国)において、「岩国徴古館所蔵の巖島資料について」と題する講座の講師を務めた。
本研究により収集した書誌データを取り込んだ「岩国徴古館 収蔵資料検索システム」のURLは次の通り。
<http://jmapps.ne.jp/iwakunichokokan/>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------